

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人 宮古島市社会福祉協議会	代表者	饒平名建次	法人・ 事業所 の特徴	社会福祉協議会が運営する事業所で、老人福祉センターを改修した建物であることから、昔からある地域に馴染みの存在である。利用者の平均介護度は1.9と中軽度の方が多く、半数以上を認知症の方が占めており、認知症ケアを主に、「誰もが人として大切にされ、安心して暮らせる地域づくりに貢献できる事業所を目指します。」を理念に掲げて、地域に根差した事業所を目指している。
事業所名	宮古島市社協小規模多機能型 居宅介護事業所きやなぎ	管理者	奥松千恵美		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	2人	5人	1人	1人	1人	0人	2人	1人	14人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する 取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の 確認	<p>・ 樹木の伐採については定期的に行う。</p> <p>・ 夜間は事業所の外灯をつけるようにする。</p> <p>・ 敷地外の街灯については管轄するところへ相談し改善してもらうようにする。</p>	<p>・ 成年後見制度や権利擁護について学ぶ機会をつくる。</p>	<p>・ 自己評価を全体的に見たところ職員の見識の中でできていないと言っているところが改善計画の中にあらわれているところがあった。</p> <p>・ 地域での支援というところでも、あまりできていないと答えた職員が多かったが、改善計画について現実的な対応策を出していると思った。</p> <p>・ 普段やっていたりも意識していない職員が多いがミーティングを通して考え、意識することができると感じた。</p>	<p>・ 職員全員で情報を共有し、改善に向けて話し合える場をできるだけ多くもうける。</p> <p>・ 研修の機会があれば、できるだけ多くの職員が参加、学べるように情報を共有する。</p>
B. 事業所の しつらえ・環境	<p>・ 樹木の伐採については定期的に行う。</p> <p>・ 夜間は事業所の外灯をつけるようにする。</p> <p>・ 敷地外の街灯については管轄するところへ相談し改善してもらうようにする。</p>	<p>・ 樹木の伐採は事業所職員ができる範囲で行い、それ以外には専門業者への依頼をする必要があったができていない。</p> <p>・ 敷地内の外灯をつけることで、夜間でも安明るさを保つことができた。</p>	<p>・ 臭いかどうか、毎日きやなぎにきている利用者の方がわかるんじゃないか。</p> <p>・ 木の伐採は今年が是非やった方がいい。</p> <p>・ 台風で折れた木が乗っている為、早めにどけた方がいい。</p> <p>・ 外灯については建物敷地内の明かりをつけることで改善されている。</p> <p>・ 玄関のドアについては工事をすることなく開閉方法で改善できたこともあるが十分ではない為、不快な思いをさせている。</p>	<p>・ 樹木の伐採を定期的に行う。</p> <p>・ 地域の方についても気軽に来所して頂けるような事業所を目指し、花壇の手入れなど明るい雰囲気づくりに努める。</p> <p>・ 修繕の必要な箇所の中から、安全性に問題のある所を優先的に直していく。</p>

<p>C. 事業所と地域のかかわり</p>	<p>・地域懇談会などに参加できるように他部署との連携をとる。          ・認知症や寝たきりなど様々な理由で介護が必要になっても安心して暮らし続けられるような地域づくりを目指し包括支援センターや関係各所と連携をとる。          ・イベント開催の案内を続けていくなど、来所して頂ける機会を作り、お互いに顔の見える関係作りを目指していく。</p>	<p>・他部署との連携で地域懇談会などに参加。事業所を利用している方の事業所の関わっていない時間の暮らしを知ることで、必要時には協力いただけるように顔の見える関係を築こうとした。          ・敬老会には、民生委員や地域の老人クラブ員を招待し、余興などで盛り上げていただいた。</p>	<p>・地域の定期総会で話を聞いてもらうのはどうか。          ・マスコミを使いサービスの内容を理解してもらおう方法もある。          ・一か所で訪問、通い、泊りが全部できる今はどこの事業所も人手不足なので特にできるできないをはっきりさせることは大切。          ・マスコミを利用の際には、利用していることを知られたい方もいるので気を付けた方がいいが広く知っていただくことは良いことです。          ・障がいのある方のサービスの法改正もあって変わってきていると聞く、利用していたサービスが利用できなくなったりすると戸惑う。</p>	<p>・イベントを通して地域の方が来所して頂ける機会を作っていくことできやーぎをしつめてもらい理解していただくきっかけをつくる。          ・認知症の勉強会を自治会やゲートボール団体などへ持ち掛け、包括支援センターと一緒に事業所や地域にて勉強会をする。</p>
<p>D. 地域に向いて本人の暮らしを支える取組み</p>	<p>・本人と地域を切り離さないように、きやーぎに来る前も現在もしっかり把握し、本人らしさを大切に支援していく。</p>	<p>・いきつけの美容室など馴染みの場所へ行くようにしていた。          ・本人のこれまでの暮らしについて知っていることを職員間で情報を共有し、できるだけ続けられるようにした。</p>	<p>・地域で開催されているイベントなどへはできるだけの参加をしていく方がいい。          ・事業所からでるだけでも喜んでいただけるので、事前にイベントを把握して職員のシフトを調整した方がいい。          ・法人内のイベントなら参加しやすいので参加するようにしていく。          ・自治会からの情報があれば、参加可能になるのではないかな。          ・利用者の状況、職員配置などによっても難しい場合もあるので、安全に無理をしないようにした方がいいと思う。</p>	<p>・地域行事への参加を今後も続けていく。          ・関りを通して顔の見える関係を作り、気軽に相談しあえるようになっていく。</p>
<p>E. 運営推進会議を活かした取組み</p>	<p>・事業所の移転先についてやその方法など、情報を寄せて頂き意見を交わしながらより一層の地域に密着した必要とされる事業所を</p>	<p>・推進員の皆さんから、事業所老朽化による移転先が決まらないことについて廃校予定地などを活用できるといいの</p>	<p>・地域との関りについて黒糖づくりなど、実現できていないが実現可能な行事開催について一緒に話をすることができた。</p>	<p>・敬老会などご家族や地域の方が来られる機会にはできるだけ運営推進員も含めた情報交換会を行っていく。</p>

<p>指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の中で気になっている方がいる場合には事業所で関わるだけでなく、必要に応じて行政や地域包括支援センターへへつなげていく。</li> </ul>	<p>ではないかなど意見を頂けた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・防災についての取り組みを知っていたいただき、様々な意見を頂くことができた。</li> <li>・きやなぎについて知っていたいただき、問題点を一緒に考えていた。</li> </ul>	<p>・実際の避難の際には、履物を履き替えるなどの余裕はないので普段から気を付ける必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・避難時に人が優先される為、必要なのは普段から取り出しやすい場所に置く必要があるのではないか。</li> <li>・地震の際、割れた窓ガラスなどで足を怪我する恐れもあるので、履物をどうするか考えておく方がいい。</li> <li>・阪神大震災の際、新築の建物でシャワ一中に震災し浴室のドアが開かず困ったという話もあった。</li> <li>・感染症拡大防止の為に実際に検温を行っているが、非接触型で行うなど感染しない対策を徹底した方が良いのではないか。</li> </ul>	<p>・事業所の移転について、移転先のことや移転の準備など情報を寄せていただき、より一層地域に必要とされる事業所を目指していく。</p>
<p>F. 事業所の 防災・災害対策</p>	<p>これまでで2回以上の訓練を実施する。</p> <p>イベント開催をきっかけに地域の方が事業所に足を運ぶことで顔の見える関係性をつくり、防災、災害時に役立つ対策になる。</p>	<p>・避難訓練を行う際に看護師からの意見もあり、多様な避難者へ対応できるように訓練を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・老人クラブ女性委員の皆さんなど地域の方に足を運んでいただく機会が多くあったため、防災訓練で炊き出しをしようという案も持ち上がり、計画を立てていただいたが感染症の心配から実施できなかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・宮古島市全体で実施されている地震津波避難訓練の機会を利用して訓練を実施する。</li> <li>・災害や緊急事態の時に近隣の方の協力が得られるような組織づくりを目指し、連絡先を聞いて連絡網の作成を行う。</li> <li>・防災計画について推進会議の場でも話し合う。</li> </ul>